# マスキングテープがつなぐ病院・地域・企業
# —ホスピタルアートの新たなかたち—

communart
depuis 2022

永廣 佳　（特定非営利活動法人コミュナール理事）
永廣 信治（同法人理事長, 吉野川病院院長, 脳神経外科専門医）

## ① 背景

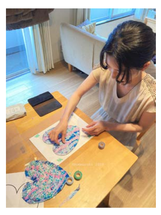
### ホスピタルアートの現状と課題

◆導入形態
　壁画・建築デザイン・絵画（版画・素描）展示が主
　（ほかにデジタルアート、オブジェ等）
⇒新築・改築時にほぼ限定、メンテナンス・変更なし
◆担い手
　美術・建築デザイン系大学の教員と学生が主
　（NPO法人等の団体、企業も存在）
⇒素人（病院利用者・職員）、プロの介在なし
◆費用
　不十分で不安定な財源

### 大学×企業CSR×アーティスト連携による「ひびきあうハート」

●Tokudai Hospital Art Labo：マスキングテープを用いて徳島県内の医療機関にホスピタルアート制作　※THALは発表者が主宰。2018年から継続的に活動。
●BNPパリバ・グループのCSR活動：助成金＋社員ボランティアによる制作参加（オンラインワークショップ）
●プロのアーティスト西村公一氏：デザイン立案、制作監修・指導（オンライン）

➡ **徳島赤十字病院に制作、東京都企業ボランティアアワード受賞**



徳島大学とBNPパリバGをつないでオンラインWS。社員は家族と自宅から参加。

オンラインWSで制作した小ハートを組み合わせて現地で制作。アーティストはオンラインで指導。

徳島赤十字病院エントランスロビーのエレベーター裏。 220枚の小さなハートを組み合わせて高さ110cm、長さ650cmの作品を制作。(2021年9月)

## ② 事例１　愛染橋病院（大阪市）のホスピタルアート ―地元企業ボランティアとの連携―

### 課題

◆職員の一体感の養成（チーム医療の向上）
◆小児科外来の待ち時間を楽しく過ごしてもらう
　※コロナ禍によるプレイルームの閉鎖
◆産科外来の待ち時間を快適にする

⬇

◆職員・外来患者・家族が一緒に取り組めるマスキングテープアートの導入
◆近隣企業（永和信用金庫）の職員ボランティアによる制作協力、地元慈善団体（大阪キワニスクラブ）による支援

**愛染橋病院での制作**　小児科と産婦人科の外来にマスキングテープで季節毎の壁面装飾を行う

(上)クリスマス装飾、2021年11-12月。ツリーやソックスの低い部分を空けておき、外来に来る子どもたちに埋めてもらった。最後に病院職員に作ってもらったオーナメントを飾り付けた。

(下)花火、2022年8月。別室の机上で夜空柄のマスキングシートの上に花火を作り、壁に貼り合わせた。

## ③ 事例２　熊本大学病院（熊本市）の「ひびきあうハート Kumamoto 2022」

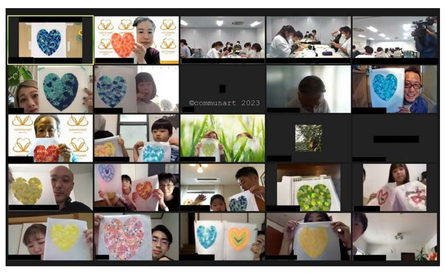
### 課題

◆大規模な急性期病院で無機質
◆心安らぐ空間がない
　※コロナ禍によるギャラリーの運用停止

⬇

◆アーティストの監修により地元学生（熊本大学、熊本駅前看護リハビリテーション学院）、企業ボランティア（BNPパリバG）、一般市民で作る大規模なマスキングテープアートを導入
◆制作費用は企業CSR（BNPパリバG）、熊大医学部同窓会（杏龍会）による支援、病院に感謝を届けたい個人による寄附で賄う。

### STEP 1 オンラインワークショップ（2022年9月）

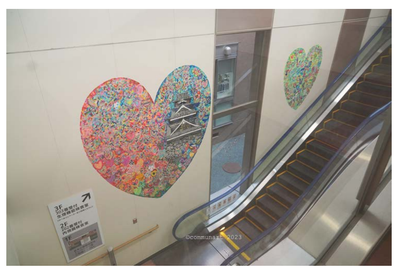
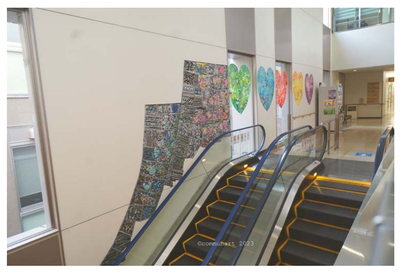


徳島と旭川（アーティストの拠点）をつなぎ、小ハート作りをオンラインで指導。関東からBNPパリバG職員88名と、熊本から熊本駅前リハ学院と熊大医学の学生100名あまりが参加。400枚弱のハートが完成。

### STEP 2 対面ワークショップ@熊本駅前アミュひろば（2022年10月「くま博」にて）

熊本駅前アミュひろばで開催された「くま博」で対面WSを実施。2日間でのべ335名の市民が参加、370枚あまりのハートが完成。制作したハートはボードに貼り付けられ、イベント会場に飾られた（終了後に回収）。会場運営には熊本駅前リハ学院と熊大の学生、熊大病院職員、当法人会員知人らがあたった。

### STEP 3 熊本大学病院での制作（2022年11月）

STEP1,2の他、当法人会員や知人らが制作したものも含め937枚の小ハートを組み合わせての制作となった。熊本のシンボルである熊本城、武者返しの石垣、五輪書をイメージした作品を、外来棟と検査スペースをつなぐエスカレータ側面と２階廊下に３日間で制作。現地ではアーティストの監修の下、学生と病院職員、会員知人らのべ30名ほどで制作にあたった。

## ④ 展望

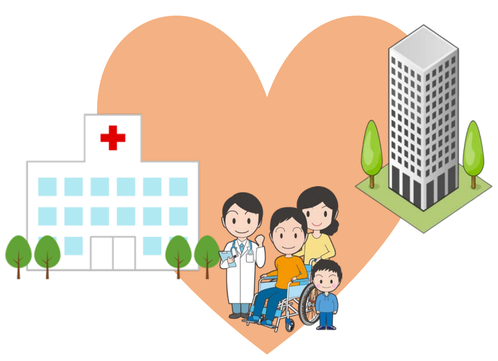
### 「外部」の協力による新たなホスピタルアートを可能にするマスキングテープ

**◆いつでもどこにでも導入可能**
　既存の病院、営業時間中でも制作可能
　→制作過程を病院利用者・職員と共有できる

**◆病院外からも制作に参加可能**
　院外（オンラインでも可能）で簡単にパーツを準備できるため、さまざまな協力者が得られる
　※作品の質を高めるためにはプロの介在が望ましい

**◆新たな「社会貢献」の提案**
・**個人に対して**：病院の恩恵を受けている人が気持ちよく感謝を伝えられる方法
・**企業に対して**：ボランティアやCSRのプログラムとして、社員が楽しみながら参加できる方法

➡ **資金やマンパワー不足を解決する鍵に**



**病院と地域・社会をつなぐ手段として**
　病院を社会に開き、社会のさまざまな個人・団体が病院を支える相互関係の構築を可能にするホスピタルアート

**筆頭演者、共同演者において、開示すべき利益相反（COI） はありません。**